

# ランチョンセミナー 3

第41回日本認知症学会学術集会/第37回日本老年精神医学会 [合同開催]

第41回日本認知症学会学術集会/第37回日本老年精神医学会 [合同開催]  
会 期：2022年11月25日(金)～11月27日(日)  
会 場：東京国際フォーラム  
大会長：三村 将 先生 (慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室)

## 「もの忘れ外来」のMRI診療 ～現状とバイオマーカー時代の展望～

座長

**原田 雅史** 先生

徳島大学大学院  
医歯薬学研究部 放射線医学分野 教授

演者

**奥村 歩** 先生

医療法人 三歩会 おくむら Memory クリニック

2022年 11月 25日(金) 11:50～12:40

第3会場 (東京国際フォーラム Bブロック 7F 「ホール B7 (2)」)



学会URL <https://www.c-linkage.co.jp/jsdr-jps2022/>

# 「もの忘れ外来」のMRI診療 ～現状とバイオマーカー時代の展望～

「もの忘れ外来」は、患者と向き合い、その生活に思いを馳せる全人的医療。MRIは、あくまでも補助的ツール。しかし、時に、このMRIが「脳を護る」診断の決め手となる。新型 Open MRI を導入後、約 5 万 scan の経験を踏まえて、現状と展望を考える。

## 1) アルツハイマー型認知症 (AD) との鑑別

脳は、緻密で崇高だが脆い。一度、傷つくと、その回復は困難を極める。遂行実行機能・記憶機能・言語機能などを、急峻に侵襲する器質的疾患の鑑別にMRIは有用である。

- ・ Eloquent area の脳腫瘍（髄膜種や神経膠種など代表的脳腫瘍と希少脳腫瘍）・脳血管障害等の診断
- ・ DESH (disproportionately enlarged subarachnoid-space hydrocephalus) の読影など、特発性正常圧水頭症とADとの鑑別ポイント
- ・ 前頭側頭型認知症とADとの「萎縮パターン」の差異

## 2) AD バイオマーカー時代の展望

MRIは、脳内・脳血管内のアミロイドβを、間接的ではあるが、把握できるモデルになりつつある。来る疾患修飾薬の適応症例の抽出のため、簡便に安全に、スクリーニング的な役割を担える可能性がある。ARIA (amyloid related imaging abnormalities) とは、疾患修飾薬の副反応の文脈で普及した概念である。しかし、ARIAは、AD患者において、日常的に観察されるMRI所見でもある。脳葉型微小出血 (MBs) ・脳表ヘモジデリン沈着 (SS) ・皮質微小梗塞 (CMI) は、アミロイド血管症を介したADのバイオマーカーとなる。ARIA-edema (ARIA-E) も、抗Aβ抗体薬の副反応のみで現れる所見ではない。AD患者が、急激な認知機能の低下やてんかんをきたした場合、MRIで、皮髄境界が橋渡しする特徴的な高信号を認めることがある。脳アミロイド血管症関連炎症 (CAA-I) である。CAA-Iは、決して稀な病態ではない。

最後に、脳内の鉄沈着を測定し、アミロイドβの動態を、推測する定量的磁化率マッピング (QSM) の可能性を展望する。

奥村 歩